

研究ノート

学生のニーズに対応した教養教育の課程研究

清水 たま子・大島 康司・松井 吉光
宮崎 元裕・斎藤 修啓

A Study of Liberal Education Based on Students' Need

Tamako Shimizu, Yasuji Ohshima, Yoshimitsu Matsui
Motohiro Miyazaki, Nobuhiro Saito

1. 研究の目的

本研究は、愛知江南短期大学に在学する学生に対しておこなったアンケート調査をもとに、短期大学における教養教育のあり方について考察するものである。

教育学の分野では、特に教育社会学の領域で、歴史的視点から高等教育における教養教育の内実を検討する研究が蓄積されている。大学への接続がユニバーサル化される中で、高等教育にて教えられるべき学問内容が問われている。現代的な話題としては、大学レベルでの国際的競争力の低下とともに大学生の学力低下の問題などがあり、大学教育の見直しは急務とされている。

また、大学教員の「教育者」としての能力向上が重要視される近年においては、多分野の専門家によって、大学・短期大学の教育課程を論ずる研究やそこでの実践研究がなされている。これらの研究は、大学全入時代を迎えることにより噴出した、大学のブランド確立や入学者の定員確保など、山積する課題の対応策としての側面を持っている。

教養学科を有する愛知江南短期大学においても、現実的な課題意識のもとで共同研究が実施されてきた。その端緒は、日本私立学校振興・共済事業団平成16年度研究振興資金および平成16年度愛知江南短期大学特別研究費を受けて実施された研究である。その成果は「短期大学における教養教育のあり方・『学生のニーズ』に基づいた教育課程改革に向けて」（松井、柴田、富田2006）にまとめられている。この研究によって、短期大学の教育内容と「学生のニーズ」との間にあるギャップが明らかにされ、教養教育のあり方に関連しておおよそ3つの示唆が得られた。たとえば、学生は教養教育か実務教育かという区別は意識しておらず、科目の本質や特質でなく、具体的な授業内容でその有用性を判断していることなどが明らかとなった。

その後、平成17年度および18年度の愛知江南短期大学特別研究費の助成を受けて研究が継

続された。その成果は「学生のニーズに対応した教養教育の課程研究」(清水、大島、松井、宮崎 2008) にまとめられている。この研究では、それまでの研究成果を反映させ、アンケートの内容に、実務的な教養教育と非実務的な教養教育の違いを意識した調査項目を設定するなど改訂をほどこした。その結果、①学生・教員・企業の三者が望ましいと考える教育のあり方がそれぞれ異なっていること、②教員と企業の意識が比較的近く、学生と教員、学生と企業の意識の違いが比較的大きいことが確認され、③学生のニーズに迎合するのではなく、学生のニーズと企業と教員のニーズを斟酌しながら、学生の意識改革を行っていく役割が短大に求められているのではないかという示唆が得られた。

先行研究の成果をもとに、本研究ではさらに継続的に実施したアンケート調査を分析することによって、学生の教養教育に対する考え方や、短大教育に対するニーズを明らかにすることを目的とする。

2. 2007 年度の調査結果

(1) 調査方法と時期

アンケート調査の実施にあたっては、2006 年度の調査と同様に既存のコース管理システム (Learning Management System: LMS、Course Management System: CMS などと呼ばれるソフトウェア) である Moodle を活用した。標準の機能として組み込まれている「Feedback」を使ってアンケート実施画面を作成し、データの収集を行った。この Feedback を使用して実施・回収した調査データは、前回の調査と同様にマイクロソフト社のエクセルを使用して処理した(アンケート回収システムの詳細については、清水、大島、松井、宮崎 2008 論文を参照)。

今回の調査で用いたアンケート項目は前回と同様のものである。設問 17「社会に出た後に求められる能力は何だと思いますか?」のみ新しく追加し、設問 19、21、23 の選択肢として「クラブ・サークル活動」を追加した。現代キャリアコースの設問 2 は留学生を考慮したものであるので、留学生のいない国際教育コースでは省略した。調査項目の全体は、参考資料として文末に示した。

調査の時期は、これまでの研究との継続性を考慮して 12 月から 1 月とした。調査の対象は、教養学科の現代キャリアコース 1 年次 14 名、2 年次 17 名、国際教育コース 1 年次 10 名、2 年次 30 名であり、それぞれ 14 名 (100%)、12 名 (71%)、9 名 (90%)、30 名 (100%) の回答が得られた。

(2) 「教養」に対するイメージ

ここからはアンケートの結果を項目順に検討していく。前年度に引き続き、学生の教養に対するイメージを調査するため、「教養のある人とはどのような人をイメージしますか」と質問した。回答の選択肢として設けた 10 項目は前年度の調査と同様、下記のように 3 分類する。

①基礎的能力 (伝統的教養)

- 「幅広い知識を持っている人」(以下、「幅広い知識」)
- 「文章を的確に読み書きできる人」(以下、「文章リテラシー」)
- 「論理的に物事を考えることができる人」(以下、「論理的思考」)
- 「幅広い視野から物事を考えることができる人」(以下、「多角的思考」)

②コミュニケーション能力

- 「自分の気持ち・考えを的確に表現できる人」(以下、「自己表現」)
- 「他人の気持ち・考えを理解できる人」(以下、「他者理解」)
- 「一般常識とマナーを身につけている人」(以下、「常識とマナー」)

③実践的・専門的能力

- 「自分の仕事に直接関係する知識・技術をたくさん持っている人」(以下、「専門的技能」)
- 「コンピュータを使いこなせる人」(以下、「コンピュータ」)
- 「英語ができる人」(以下、「英語」)

質問に対する回答結果は図1の通りである。回答が多かったのは「常識とマナー」「幅広い知識」「他者理解」で、回答が少なかったのは「論理的思考」「英語」「文章リテラシー」「コンピュータ」である。「他者理解」については現代キャリアコースが少ないが、それ以外では両コースともに、比較的同じ傾向を示している。

全体的に見て、学生が教養として最も重視しているのは「コミュニケーション能力」と言える。「コミュニケーション能力」として分類した「自己表現」「他者理解」「常識とマナー」はいずれも回答数が多い。また、基礎的能力(伝統的教養)に該当する項目の中では回答が多かった「幅広い知識」や「多角的思考」も、他者とのコミュニケーションをとるために必要なものとみることできる。

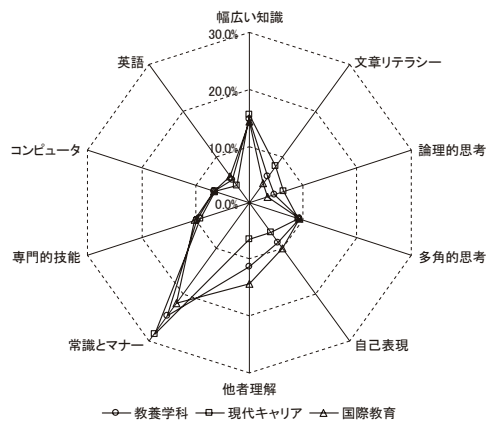


図1 教養のある人とはどのような人をイメージしますか？

(3) 教養のイメージと自分の目指す人物像との相違

学生の「教養」に対するイメージを確認したが、それでは、学生は教養のある人になりたいと感じているのだろうか。この点を調べるために、図1と同様の回答項目で学生に対して、「どういふ人になりたいか」と質問した結果が図2である。

図2を見てわかるように、回答が多かったのは「常識とマナー」「他者理解」「自己表現」で、回答が少なかったのは「文章リテラシー」「論理的思考」「幅広い知識」「コンピュータ」である。現代キャリアコースで「自己表現」が少なかった他は、両コースの学生の回答は、比較的同じ傾向を示している。

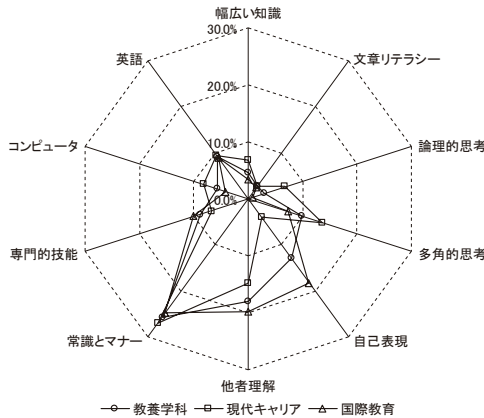


図2 あなたはどのような人になりたいですか？

である。学生は、幅広い知識を持つことを教養と認識する一方で、自分が目指すのは幅広い知識を持つことではないと考える傾向があると言える。

こうした違いがあるとはいえ、全体的な傾向としては、図1と同様、コミュニケーション能力重視の結果となっている。

(4) 自分の目指す人物像と短大で身につけることのギャップ

それでは、コミュニケーション能力を重視する学生は、短大生活を通して何を得ているのだろうか。この点を調べるために、図1・図2と同様の回答項目で、「短大で何を身につけたか（または、これから何を身につけたいか）」と質問した結果が図3である。

学生の回答が多いのは「コンピュータ」「常識とマナー」「専門的スキル」で、学生の回答が少ないのは「論理的思考」「文章リテラシー」「多角的思考」だった。短大では、コンピュータや自分の仕事に関係する知識・技術といった実践的・専門的能力を身につけた（身につけたい）と考えている学生が多い。図1・図2で学生が重視していたコミュニケーション能力の中では「常識とマナー」を身につけた、または身につけたいと考えているが、それ以外の「自己表現」と「他者理解」については特に重視している傾向は見られない。

また、基礎的能力（伝統的教養）に対して

図1の教養のイメージと同様、コミュニケーション能力に関する項目が重視されている結果となっている。特に、「常識とマナー」を身につけることに関しては、図1・図2ともに最上位となっている。「常識とマナー」を身につけることが教養と考え、そういった人になりたいと考えている学生が多いという点では、学生は（常識とマナーという）教養を身につけたいと考えているといえる。

図1と図2の回答結果を比較した場合、目立った相違点は、図1で回答の多かった「幅広い知識」が図2では半減していること

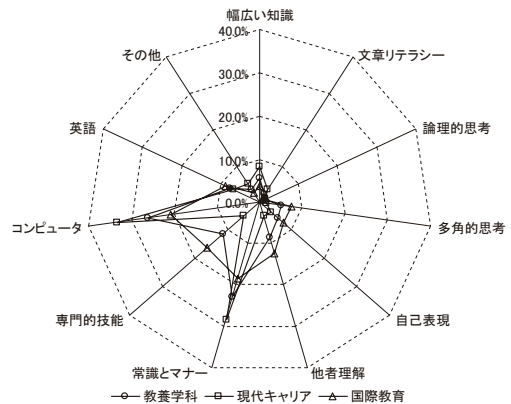


図3 短大で学んで何が身につきましたか？ または、これから何を身につけたいですか？

は学生のニーズは高いとは言えないが、基礎的能力に該当する4項目全て（「幅広い知識」「文章リテラシー」「論理的思考」「多角的思考」）において、図2よりも図3で回答数が減っている傾向がある。

なお、基礎的能力と同じく学生のニーズが低かった「コンピュータ」は、図3で大きく回答数が増加している。すでにコンピュータが普及し、就職後の社会生活を営む上で必須のアイテムになっていることから、学生は「コンピュータ」を教養や専門的能力ととらえるのではなく、リテラシーとして身につけるべきものとして考え、実際に短大教育の中で身につけた、または身につけたい能力としてとらえている傾向がある。

(5) 社会生活を営む上での必要と考えていることと短大で身につけることとのギャップ

図3と全く同じ回答項目で、「社会に出た後に求められる能力とは何か」を質問した結果が図4である。学生の回答が多いのは「常識とマナー」「専門的技能」「自己表現」「他者理解」で、学生の回答が少ないのは「論理的思考」「英語」「文章リテラシー」「幅広い知識」である。学生の回答数の多い項目については、図3と図4でほとんど同じ傾向であった。これは、学生が社会に出た後に必要な能力と考えていることを、短大で身につけた、または身につけたいと考えていることを示していると言える。

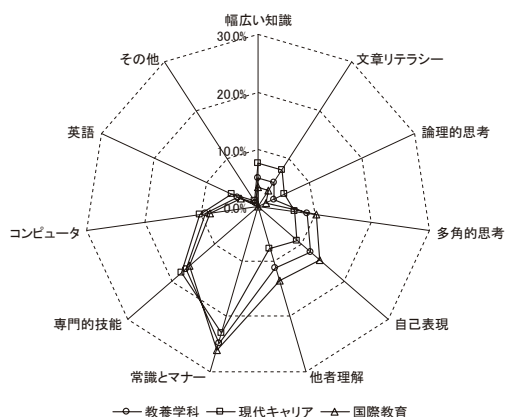


図4 社会に出た後に求められる能力は何だと思いますか？

(6) 教養を身につけるために必要な経験

ところで、学生はどういった経験を通して教養が身につくと考えているのだろうか。図5は「教養を身につけるのに必要なことは何だと思いますか」という質問に対する回答結果である。

学生の回答が多いのは「尊敬できる人との出会い」「本を読むこと」「新聞を読むこと」で、学生の回答が少ないのは「テレビを見ること」「短大の授業」「同級生との交流」だった。教養学科にもかかわらず、教養を身につけた

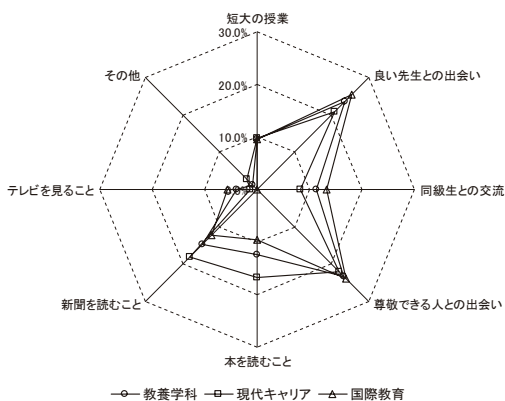


図5 教養を身につけるのに必要なことは何だと思いますか？

めに「短大の授業」に期待している学生は少ないというのが現実である。

図1～図5までで言えることとしては、学生が教養と考えていることと短大が行っている教育の中身とはギャップがあるが、学生が社会に出た後に必要と考えていることと現在行っている短大の教育とはそれほど大きなズレがないということだろう。これは学生が短大に求めていることが、目に見える形で役に立つことを教える教育であるということの裏付けとも言える。

(7) 短大に対する期待と現実

学生の短大に対する期待と実際を検討するためのアンケート結果が図6、図7、図8である。図6を見ると、学生は入学前に短大に対して「資格取得に関する教育内容」「就職」「友人関係」を期待する一方で、「資格取得に関係しない教育内容」「教員の指導」「実習」「設備・施設」などにはそれほど期待していなかったことがわかる。

学生が短大に入って良かったと思うことは、図7の通り、「友人関係」「資格取得に関する教育内容」「クラブ・サークル活動」である。なお、現代キャリアコースでは「就職」「教員の指導」、国際教育コースでは「クラブ・サークル活動」「留学」が多いという点で、コースごとに傾向の違いが見られる。

逆に、短大に入って期待はずれだったこととして多くの学生が挙げるのは、

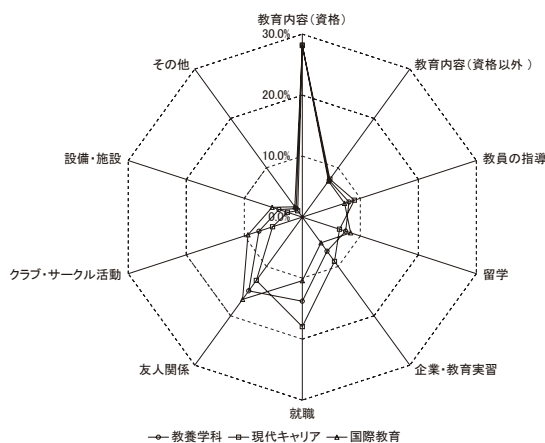


図6 入学前、短大に対して特に期待していたことは何ですか？

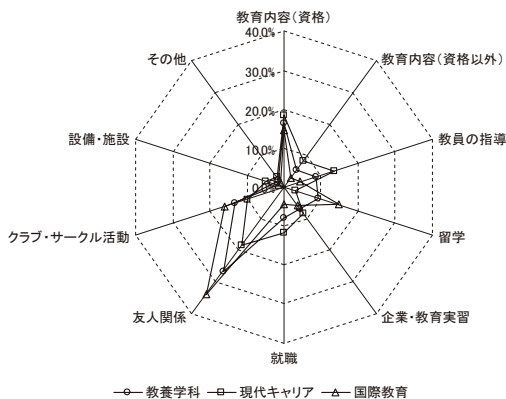


図7 短大に入って良かったと思うことは何ですか？

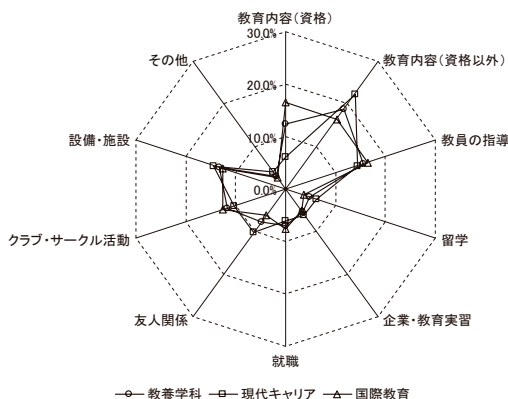


図8 短大に入って期待はずれだったことは何ですか？

「資格取得には直接は関係しない教育内容」「教員の指導」「設備・施設」である（図8）。特に、現代キャリアコースでは「資格取得には直接は関係しない教育内容」を挙げた者が多い。

図6～8から読み取れることは、入学前は「資格取得に関係する教育内容」に対する期待が大きいが、入学後は「資格取得には直接は関係しない教育内容」に対する不満が強いということである。

(8) 短大で学ぶことの意義

学生は短大で学ぶことを自分の人生においてどう位置付けているのだろうか。これを検討したのが図9と図10である。「これまで短大で学んだことは、どんな時に役に立つと思いますか」という質問に対して、学生の回答が最も多かったのは「就職するために役に立つ」であり、最も少なかったのは「私生活を豊かにするために役に立つ」である（図9）。「就職するために役に立つ」と「仕事上、役に立つ」という二つの回答が大半を占め、仕事に直結した教育を受ける場として短大をとらえる学生が多いと言える。一方、学生が短大でもっと学びたかったと思っているのは、「仕事上、役に立つ」である（図10）。ここでも、学生の仕事に直結した教育に対する期待が垣間見られる。

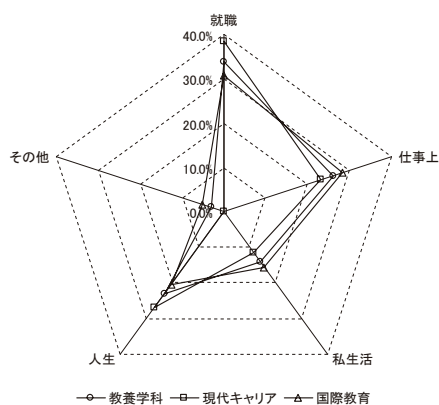


図9 これまで短大で学んだことは、どんな時に役に立つと思いますか？

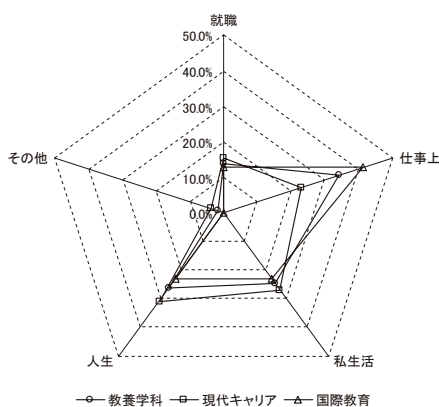


図10 短大でもっと学びたかったと思うのはどんなことですか？

3. 同一人物の追跡調査

2007年度の調査は、2006年度の調査項目と同じ、またはほぼ同じものが多く、2006年度1年次の学生は、2007年度の調査にも参加しているため、同一の調査項目等についての追跡調査が可能である。調査の間の一年でどのように学生の意識が変化するかは、現在の教養学科の課程が学生にどのように影響しているかを部分的にでも示していることになると考えられる。両年度とも回答した現代キャリアコース8名、国際教育コース24名についてまとめた結果を図11～19に示す。それぞれの図は、教養学科、現代キャリアコース（現キ）、国際教育コース（国教）について各学年のそれぞれの選択肢の

選択数を示したものである。年度間で選択肢ごとの選択数の比較をした場合に、2007年度について選択数が減少している項目が全体的に多くなっている。これは、どちらの年度でも複数回答が可能な項目については最大選択数を指定したが、制限は設けずに最大選択数よりも多く選択することが可能となっており、2006年度は最大選択数が遵守されていない回答者が多数であるのに対して、2007年度についてはほぼ遵守されているためと考えられる。以下に設問ごとの結果を検討する。

(1) 教養のある人とはどのような人をイメージしますか？ (図 11)

この設問について、1年次からのもっとも大きな変化があるのは、「常識とマナー」であり、1年次26人（現キ8人、国教18人）から2年次21人（同7人、14人）に減少している。次に「幅広い知識」が1年次13人（現キ4人、国教9人）から2年次17人（同5人、12人）に増大している。また、「自己表現」が、1年次5人（現キ4人、国教9人）から2年次8人（同5人、12人）に増加している。その他では、「英語」が1年次3人（現キ0人、国教3人）から2年次0人（同0人、0人）に、「自己表現」が1年次11人（現キ2人、国教9人）から2年次8人（同3人、5人）に減少している。

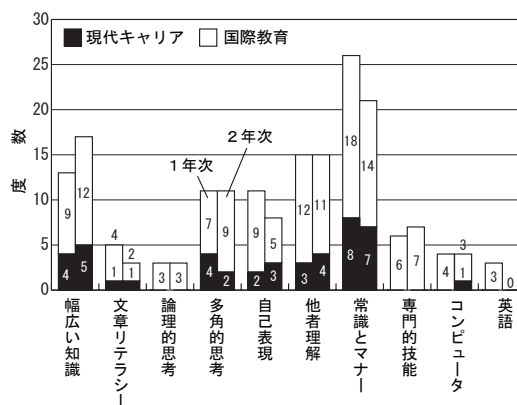


図 11 教養のある人とはどのような人をイメージしますか？

多少の増減はあるものの、全体としては学生が抱く教養に対するイメージは二年間を通してあまり変化していないように見える。教養というものが漠然としたものであり、当然の結果ともいえるかもしれない。

(2) 教養を身につけるのに必要なことは何だと思いますか？ (図 12)

「本を読むこと」が1年次16人（現キ5人、国教11人）から2年次9人（同3人、6人）に減少している。他の項目については「良い先生との出会い」が1年次20人（現キ6人、国教14人）から2年次22人（同6人、16人）に増加しているのみで、「新聞を読むこと」についての1年次16人（現キ6人、国教10人）から2年次13人（同6人、7人）

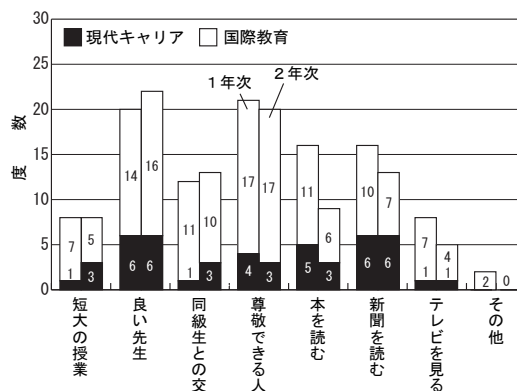


図 12 教養を身につけるのに必要なことは何だと思いますか？

への減少、および「テレビを見ること」についての1年次8人（現キ1人、国教7人）から2年次5人（同1人、4人）に減少しているのを含めてすべて減少している。

増加している選択肢が「良い先生との出会い」ということは、調査の間の一年間でそのような先生に出会えたということを示していると考えれば、喜ばしいことであるが、総数としては少なく一般的な傾向とするのは難しいといえる。一方で「本を読むこと」が減少していることは、教養学科としては、望ましい結果とはいえず、その原因を明らかにするような調査が必要と考えられる。

(3) あなたはどのような人になりたいですか？ (図13)

「多角的思考」についての1年次17人（現キ4人、国教13人）から2年次9人（同3人、6人）の減少、および「他者理解」についての1年次9人（現キ1人、国教8人）から2年次22人（同6人、16人）の増加が顕著である。特に後者は13人の変化であり、これほどの変化は他のどの項目にも見られないものであり、他者との関わりに対しての興味の変化の表れであると考えられる。これが一般的なコミュニケーション能力に対する欲求となって表れているようにも思われる。学生生活を通して、このようなことを学んだということであるとすれば、望ましいといえるかもしれないが、課程の中でそのようなことを学べなかったということの表れであるともいえる。

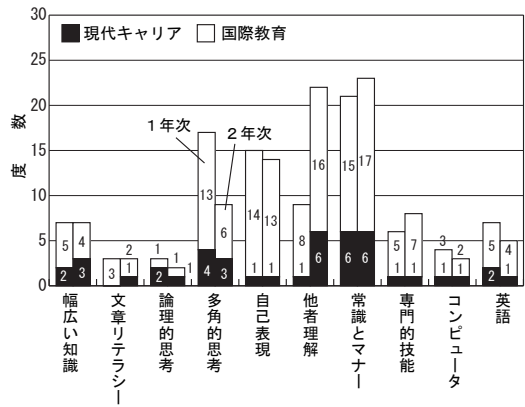


図13 あなたはどのような人になりたいですか？

(4) 短大で学んで何が身につきましたか？ または、これから何を身につけたいですか？ (図14)

「多角的思考」についての1年次9人（現キ3人、国教6人）から2年次4人（同0人、4人）、「自己表現」についての1年次10人（現キ3人、国教8人）から2年次6人（同0人、6人）、「文章リテラシー」についての1年次3人（現キ1人、国教2人）から2年次0人（同0人、0人）は両コースともに減少している。「幅広い知識」に

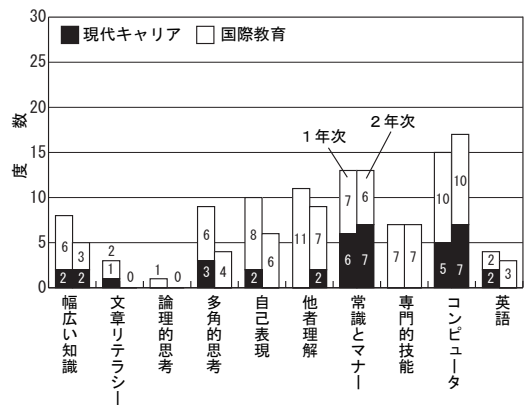


図14 短大で学んで何が身につきましたか？
または、これから何を身につけたいですか？

については1年次8人（現キ2人、国教6人）から2年次5人（同2人、3人）と国際教育コースのみ減少しており、「他者理解」については1年次11人（現キ0人、国教11人）から2年次9人（同2人、7人）と現代キャリアコースが増加しているのに対して国際教育コースは減少している。

この設問は、1年次の時点では希望も含まれていたことから、それを受けての結果を表しているともいえる。全体としては、増減は小さいといえるが、増加が少ないということは、一年間で選択肢にあるような内容を新しく学ぶことがなかったということとも考えられる。

(5) 入学前、短大に対して特に期待していたことは何ですか？（図15）

この設問は、本来であれば調査時期の違いがあったとしても、結果に差異が生じるはずがない事項ではあるが、一年の間の経験などによって回答に変化を生じさせる可能性はあると考えられ、結果としても回答がまったく同一だったのは7名であり、すべての選択肢で変化が見られる。ただし、2007年度の調査では、選択肢として「クラブ・サークル活動」が追加されており、2007年度の調査でこれを選択した回答もあり、「友人関係」などから変更した可能性も排除できない。「教員の指導」についての1年次9人（現キ3人、国教6人）から

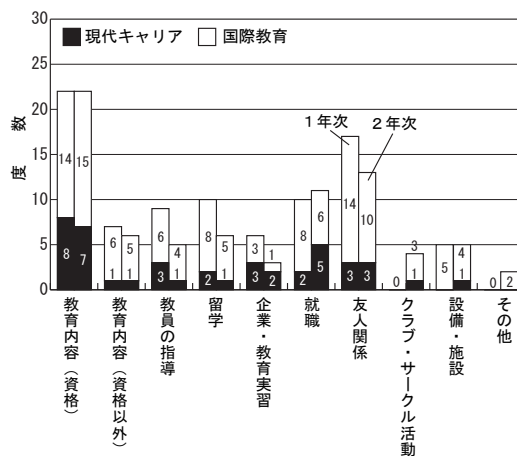


図15 入学前、短大に対して特に期待していたことは何ですか？

から2年次5人（同1人、4人）、「留学」についての1年次10人（現キ2人、国教8人）から2年次6人（同1人、5人）、「友人関係」についての1年次17人（現キ3人、国教14人）から2年次13人（同3人、10人）などが減少している。また、「就職」については1年次10人（現キ2人、国教8人）から2年次11人（同5人、6人）と現代キャリアコースのみ増加している。

これらの増減の解釈は困難であり、個別の聞き取り調査などが必要と考えられる。

(6) 短大に入って良かったと思うことは何ですか？（図16）

この結果では、「企業・教育実習」についての1年次10人（現キ3人、国教7人）から2年次3人（同3人、0人）の減少が顕著であり、国際教育コースのみ大きく変化している。「教育内容（資格・免許取得に関係する内容）」についての1年次13人（現キ4人、国教9人）から2年次10人（同3人、7人）、「教育内容（資格・免許取得に直接は関係しない内容）」についての1年次5人（現キ0人、国教5人）から2年次3人（同1人、2人）、「教員の指導」についての1年次6人（現キ3人、国教3人）から2年次3人（同2人、1人）、「友人関係」に

ついでに1年次19人(現キ5人、国教14人)から2年次16人(同5人、3人)、「設備・施設」についての1年次3人(現キ0人、国教0人)から2年次0人(同0人、0人)などが減少している。「就職」についての1年次3人(現キ1人、国教2人)から2年次6人(同4人、2人)が現代キャリアコースのみ増加している。

これらからは、国際教育コースの学生は、教育実習を含めた教育課程そのものに対して、不満であるようにみえる。過密な課程に対する不満が日常的にも表出されることがあり、このような結果は予測の範囲にあるとはいえ、何らかの歩み寄りが必要だったのではないかと考えさせられる結果である。

現代キャリアコースの学生にとっては、増加数は3人と少数ではあるが、当該コースの総回答数(8名)や他の設問での増減数を考慮すると「就職」に対する満足が高まったといえるのではないと思われる。

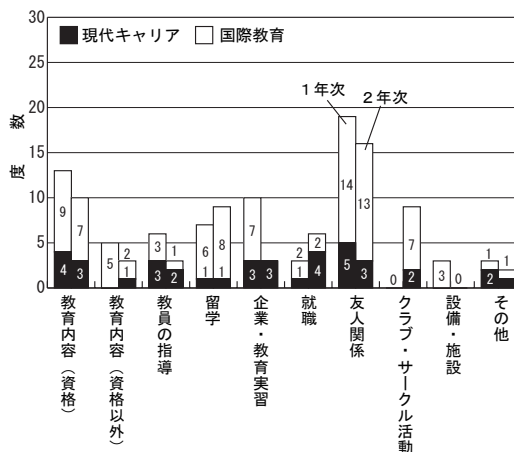


図16 短大に入って良かったと思うことは何ですか？

(7) 短大に入って期待はずれだと思ったことは何ですか？ (図17)

「設備・施設」についての1年次17人(現キ2人、国教15人)から2年次8人(同2人、6人)と国際教育コースのみ大幅に減少している。「友人関係」については1年次6人(現キ1人、国教5人)から2年次2人(同1人、4人)と減少している。これは、これまでの設問と同様に「クラブ・サークル活動」の選択肢への追加が影響していると考えられる。「教育内容(資格・免許取得に関係する内容)」についての1年次6人(現キ3人、国教3人)から2年次8人(同0人、8人)と両コースで傾向が逆になっており、国際教育コースの回答数の増加が大きい。

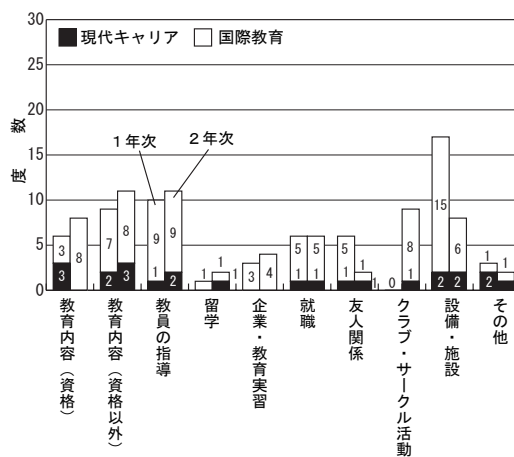


図17 短大に入って期待はずれだと思ったことは何ですか？

「設備・施設」についての不満が国際教育コースに顕著に現れている点は現代幼児学科の設備との比較によるものであると考えられるが、2年次で減少する理由は不明である。「教育内容(資格・免許取得に関係する内容)」についても国際教育コースの増加は、不満を反映した

ものであると考えられ、どこに原因があるかを見極めることが必要である。

(8) これまで短大で学んだことは、どんな時に役に立つと思いますか？ (図 18)

「就職をするために役に立つ」についての1年次11人(現キ1人、国教10人)から2年次8人(同1人、7人)の減少がもっとも顕著な変化であり、全体としてはそれほどの変化がないといえる。

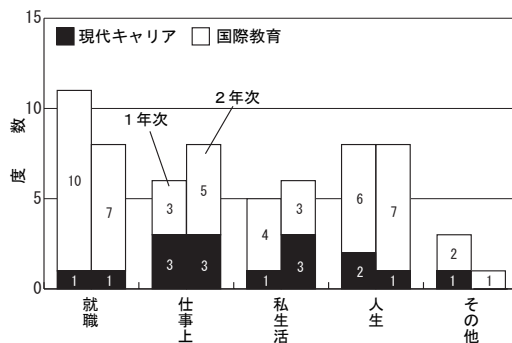


図 18 これまで短大で学んだことは、どんな時に役に立つと思いますか？

(9) 短大でもっと学びたかったと思うのはどんなことですか？ (図 19)

図から、この設問は他の設問に比較して差が大きいことがわかる。「就職をするために役に立つ」については1年次12人(現キ3人、国教9人)から2年次4人(同1人、3人)と減少している。「私生活を豊かにするために役に立つこと」については1年次3人(現キ1人、国教2人)から2年次9人(同2人、7人)と増加している。また、「仕事上、役に立つこと」については1年次8人(現キ2人、国教6人)から2年次11人(同1人、10人)と国際教育コースで増加している。

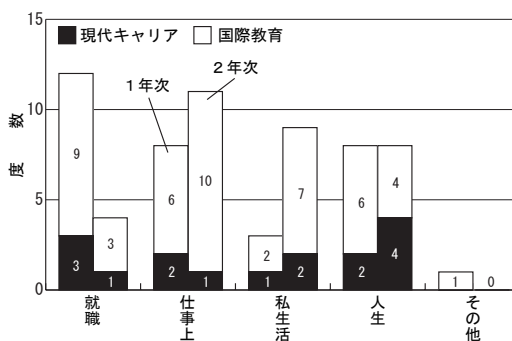


図 19 短大でもっと学びたかったと思うのはどんなことですか？

これらの結果は調査の時期が大きく影響していると考えられる。2006年度の調査時点では、就職活動が始まる直前の時期であり、就職するために必要な知識への欲求や不安が選択数の増加につながったと考えられる。また、2007年度の調査時期にはほとんどの学生が内定を得ており、就職するために必要なことに対する欲求は減退し、就職後の生活に対する希望や不安に対する欲求が高まっていると考えられる。

4. まとめ

教養教育に関する研究は教養学科教員を中心に継続的に行われてきたわけだが、2006年度に質問項目を大幅に変更している。そのため、今回の2007年度調査によって、2回の調査結果を比較することが可能になった。

2006年度と2007年度の結果を比べてみると、どちらの調査においても、常識とマナーといっ

たコミュニケーション能力が重視されているなど、全体的に非常に似通った傾向を示している。2回の調査の両方に回答した者の追跡調査を見ても、全体的な傾向は似通っている。これだけ似通った傾向を示すということは、回答者である学生は、安易に回答したわけではなく、アンケートに真剣に回答していた証拠とも言え、本調査の結果はある程度まで学生の考えを反映したものであるとして信頼しても良いだろう。

ただ、全体として似通った結果になったといっても、詳細に同一人物の追跡調査を検討したところ、興味深い事実が明らかになった。特に興味深い点は、①「教養を身につけるのに必要なことは何だと思いますか？」という質問に対して「本を読むこと」を挙げた学生が2年次で大きく減少していること、②「あなたはどのような人になりたいですか？」という質問に対して「幅広い視野から物事を考えることができる人」を挙げた学生が2年次に減少するとともに「他人の気持ち・考えを理解できる人」を挙げた学生が大幅に増加したこと、③「短大に入って良かったと思うことはなんですか？」という質問に対して「企業・教育実習」を挙げた学生が国際教育コースで2年次に大幅に減少していること、④「短大でもっと学びたかったと思うことはどんなことですか？」という質問に対して「就職をするために役に立つ」を挙げる学生が2年次に減少するとともに、「私生活を豊かにするために役に立つこと」を挙げる学生が増加していることの4点であろう。この4点について改めて言及していきたい。

まず①の「本を読むこと」の減少については、改めて聞き取り調査などを通じて原因を究明する必要がある。なぜなら、昨年度の教養学科教員に対する調査では、教養を身につけるために教員が最も重視していたことは「本を読むこと」で（清水、大島、松井、宮崎 2008）、この結果は、教員が認識している「本を読むこと」の重要性が学生にまで伝わっていないことを意味しているからである。

②の「幅広い視野から物事を考える人」の減少についても、昨年度の調査によると、教員はこの能力を短大で学生に身につけて欲しい能力と考えているにもかかわらずこうした結果になっているため（清水、大島、松井、宮崎 2008）、①と同様に、原因究明の必要があるだろう。

②の「他人の気持ち・考えを理解できる人」を挙げた学生が大幅に増加している点に関しては、他者理解の必要性を短大生活を通じて多くの学生が認識したと理解でき、教養学科の教育成果として肯定的に評価できる点だと思われる。

③の「企業・教育実習」の国際教育コースにおける大幅な減少は、意外な結果であった。というのも、個人的には、教育実習の前後では、教育実習後の方が学生の学習意欲や学習態度が向上していると感じていたからである。この点に関しても、聞き取り調査などを通じて、学生の考えを改めて詳しく聞きながら、原因を究明する必要がある。

④の結果は、まず就職が決まることが最優先で、就職が決まって初めて就職に直接は関係のなさそうなことに対して意識が向くという学生の心理を如実に示している。こうした学生の心理を適切に踏まえながら、こうした心理に沿った教育課程のあり方を考える重要性を改めて感じる結果となっている。

5. 今後の課題

本研究は本学教養学科を対象に行い、いくつかの問題を浮き彫りにしてきた。その間にも、社会情勢は刻々と変化している。経済産業省では、2005年7月に第1回「社会人基礎力に関する研究会」を産業界、教育界、学界の参加を得て開催している。同時期、文部科学省では、近年の学力低下を危惧して「初年次教育」の充実を提唱している。厚生労働省においては、2008年から「就職基礎能力支援事業」として若年者のコミュニケーション能力（人間関係力）、職業人意識、基礎学力の向上のための事業を展開している。企業が新規学卒者の採用時に「社会人基礎力」を重視する昨今、教育現場から実社会への円滑な接続の要となるのが、教養教育であるなら、その充実を加速しなければならない。

本学においては、再来年度には教養学科と生活科学科を統合して、新学科をスタートさせる計画である。また、文部科学省の要請のもとに、教養科目の共通化、統合・整理を行い、人間関係力、社会人基礎力などを涵養することを目指して「初年次教育」に力をいれたカリキュラムへの変更を計画している。現在の本学の4学科はそれぞれに目標が異なるため、共通カリキュラムを策定することは困難と考えられていたが、このような変化への対応は不可避である。

本研究は、教養学科に特化した研究として開始されたが、このような状況を鑑みて学内全体のニーズを明確にするために対象を全学学生に拡大し、新カリキュラムの策定に寄与したいと考えている。

付記

- (1) 本研究は2007年度愛知江南短期大学特別研究費による研究成果の一部である。
- (2) 本稿は、以下の分担により作成された。研究計画の立案、アンケートの作成と実施は、清水・大島・松井・宮崎が行った。アンケートのデータ整理・図表の作成は大島が担当した。本文は、斎藤が1を、松井が2を、大島が3を、宮崎が4を、清水が5を執筆し、執筆者全員で内容の調整を行った。

参考文献

松井吉光、柴田昇、富田福代「短期大学における教養教育のあり方～『学生のニーズ』に基づいた教育課程改革に向けて」『愛知江南短期大学紀要』第35号、2006年、13～32頁。

清水たま子、大島康司、松井吉光、宮崎元裕「学生のニーズに対応した教養教育の課程研究」『愛知江南短期大学紀要』第37号、2008年、43～76頁。

経済産業省 社会人基礎力に関する研究会

<http://www.meti.go.jp/policy/kisoryoku/index.htm> (2008年9月10日に確認)

文部科学省 中央教育審議会答申 2005年1月「我が国の高等教育の将来像から」

http://www.mext.go.jp/b_menu/shingi/chukyo/chukyo0/toushin/05013101/006.htm (2008年9月10日に確認)

厚生労働省 「就職基礎能力支援事業」

<http://www.mhlw.go.jp/houdou/2008/03/h0321-1.html> (2008年9月10日に確認)

アンケート調査

このアンケートは、教養学科の教員が取り組んでいる共同研究（愛知江南短期大学平成18年度特別研究「学生のニーズに対応した教養教育課程に関する研究」）の基礎資料となるものです。この共同研究は、学生の皆さんの感じたことも参考にしながら、短期大学における教養教育の望ましいあり方を考えようとする研究で、愛知江南短期大学にとっても、学生の皆さんにとっても大切なものです。こうした事情を理解していただき、アンケートの回答にご協力をお願いします。

1. あなたのコースはどちらですか？

現代キャリア 国際教育

2. あなたの学年はどちらですか？

1年 2年

3. あなたは留学生ですか？

はい いいえ

4. あなたの性別はどちらですか？

男 女

5. あなたの年齢はどちらですか？

20歳未満 20歳以上

6. 出身高校の学科はどれでしたか？

普通科 職業科（商業科、家政科など） その他

7. 上記質問の「その他」具体的な学科名は何ですか？

()

8. 受験時は本コースが第一志望でしたか？

はい いいえ

9. 教養のある人とはどのような人をイメージしますか？（最大3つまで）

- ① 自分の仕事に直接関係する知識・技術をたくさん持っている人
- ② 幅広い知識（政治経済、歴史、文学、芸術、科学など）を持っている人
- ③ コンピュータを使いこなせる人
- ④ 英語ができる人
- ⑤ 一般常識とマナーを身につけている人
- ⑥ 文章を的確に読み書きできる人
- ⑦ 論理的に物事を考えることができる人
- ⑧ 幅広い視野から物事を考えることができる人
- ⑨ 自分の気持ち・考えを的確に表現できる人
- ⑩ 他人の気持ち・考えを理解できる人
- ⑪ その他

10. 上記質問の「その他」具体的な内容は何ですか？

()

11. あなたが教養のある人だと思う人は誰ですか？（有名人の場合、その人の名前を書いてください。有名人ではない場合は、どのような方かわかるように書いてください）。

()

12. 教養を身につけるのに必要なことは何だと思いますか？（最大3つまで）

- ① 短大の授業
- ② 良い先生との出会い
- ③ 同級生との交流
- ④ 尊敬できる人との出会い
- ⑤ 本を読むこと
- ⑥ 新聞を読むこと
- ⑦ テレビを見ること
- ⑧ その他

13. あなたはどのような人になりたいですか？（最大3つまで）

- ① 自分の仕事に直接関係する知識・技術をたくさん持っている人
- ② 幅広い知識（政治経済、歴史、文学、芸術、科学など）を持っている人
- ③ コンピュータを使いこなせる人
- ④ 英語ができる人
- ⑤ 一般常識とマナーを身につけている人
- ⑥ 文章を的確に読み書きできる人
- ⑦ 論理的に物事を考えることができる人
- ⑧ 幅広い視野から物事を考えることができる人
- ⑨ 自分の気持ち・考えを的確に表現できる人
- ⑩ 他人の気持ち・考えを理解できる人
- ⑪ その他

14. 上記質問の「その他」具体的な内容は何ですか？

()

15. 短大で学んで何が身につきましたか？または、これから何を身につけたいですか？

(最大3つまで)

- ① 自分の仕事に直接関係する知識・技術
- ② 幅広い知識（政治経済、歴史、文学、芸術、科学など）
- ③ コンピュータ
- ④ 英語
- ⑤ 一般常識とマナー
- ⑥ 文章を的確に読み書きできる能力
- ⑦ 論理的に物事を考える能力
- ⑧ 幅広い視野から物事を考える能力
- ⑨ 自分の気持ち・考えを的確に表現する能力
- ⑩ 他人の気持ち・考えを理解する能力
- ⑪ その他

16. 上記質問の「その他」具体的な内容は何ですか？

()

17. 社会に出た後に求められる能力は何だと思いますか？（最大3つまで）

- ① 自分の仕事に直接関係する知識・技術
- ② 幅広い知識（政治経済、歴史、文学、芸術、科学など）

- ③ コンピュータ
- ④ 英語
- ⑤ 一般常識とマナー
- ⑥ 文章を的確に読み書きできる能力
- ⑦ 論理的に物事を考える能力
- ⑧ 幅広い視野から物事を考える能力
- ⑨ 自分の気持ち・考えを的確に表現する能力
- ⑩ 他人の気持ち・考えを理解する能力
- ⑪ その他

18. 上記質問の「その他」具体的な内容は何ですか？

()

19. 入学前、短大に対して特に期待していたことは何ですか？（最大3つまで）

- ① 教育内容（資格・免許取得に関する内容）
- ② 教育内容（資格・免許取得に直接は関係しない内容）
- ③ 教員の指導
- ④ 留学
- ⑤ 企業実習・教育実習
- ⑥ 就職
- ⑦ 友人関係
- ⑧ クラブ・サークル活動
- ⑨ 設備・施設
- ⑩ その他

20. 上記質問の「その他」具体的な内容は何ですか？

()

21. 短大に入って良かったと思うことは何ですか？（最大3つまで）

- ① 教育内容（資格・免許取得に関する内容）
- ② 教育内容（資格・免許取得に直接は関係しない内容）
- ③ 教員の指導
- ④ 留学
- ⑤ 企業実習・教育実習
- ⑥ 就職
- ⑦ 友人関係
- ⑧ クラブ・サークル活動
- ⑨ 設備・施設
- ⑩ その他

22. 上記質問の「その他」具体的な内容は何ですか？

()

23. 短大に入って期待はずれだと思ったことは何ですか？（最大3つまで）

- ① 教育内容（資格・免許取得に関する内容）
- ② 教育内容（資格・免許取得に直接は関係しない内容）
- ③ 教員の指導

- ④ 留学
- ⑤ 企業実習・教育実習
- ⑥ 就職
- ⑦ 友人関係
- ⑧ クラブ・サークル活動
- ⑨ 設備・施設
- ⑩ その他

24. 上記質問の「その他」具体的な内容は何ですか？

()

25. 入学前に卒業後就きたい職業（職種）は決まっていたらいいですか？

- ① 決まっていた
- ② ほとんど決まっていなかった
- ③ まったく考えていなかった

26. 決まっていた人はその職業（職種）は何ですか？

()

27. 現在、卒業後就きたい職業（職種）は決まっていますか？

- ① 就職が決まっている、または希望職種が決まっている
- ② ほとんど決まっていない
- ③ まったく考えていない

28. 決まっている人はその職業（職種）は何ですか？

()

29. これまで短大で学んだことは、どんな時に役に立つと思いますか？

- ① 就職をするために役に立つ
- ② 仕事上、役に立つ
- ③ 私生活を豊かにするために役に立つ
- ④ 人生を通じてすべての面で役に立つ
- ⑤ その他

30. 上記質問の「その他」具体的な内容は何ですか？

()

31. 短大でもっと学びたかったと思うのはどんなことですか？

- ① 就職をするために役に立つこと
- ② 仕事上、役に立つこと
- ③ 私生活を豊かにするために役に立つこと
- ④ 人生を通じてすべての面で役に立つこと
- ⑤ その他

32. 上記質問の「その他」具体的な内容は何ですか？

()

ご協力ありがとうございました。

担当：愛知江南短期大学 清水・大島・松井・宮崎